

強者の戦略

【解答】

- 問1 **ア**ー輸出量 **イ**ー産出量 **ウ**ー輸入量
- 問2 資源の少ない日本で割合が高いので**ウ**が輸入量、国内での消費が多く輸出余力が少ない中国で割合が高いので**イ**が産出量、ペルシャ湾岸に産油地帯を要する中東で割合が高いので**ア**が輸出量となる。(89字)
- 問3 とともに水力発電中心であり、カナダでは西部の山岳や東部の高原の落差を利用し、ブラジルではブラジル高原の落差を利用している。(60字)
- 問4 石油危機以降、重工業が衰退し、造船竣工量も停滞し始めた日本に対し、日本より大きな造船設備を持ち大型船を建造でき、人件費も安いのでコストを抑えることができる韓国の竣工量が増加した。(89字)
- 問5 ③ー砂糖 ④ーワイン
- 製糖業はサトウキビが栽培できるブラジルなどの温暖な地域と、テンサイが栽培できる寒冷的な地域に立地する。ワイン製造業は原料となるブドウが栽培できる地中海性気候を持つ国に立地する。(87字)
- 問6 **M**地域は高級毛織物など繊維工業が盛んだったが、近年では大学や研究所との産学連携によって、先端産業が発展している。**K**地域は石油化学工業が発達しているほか、航空宇宙産業も盛んである。(89字)

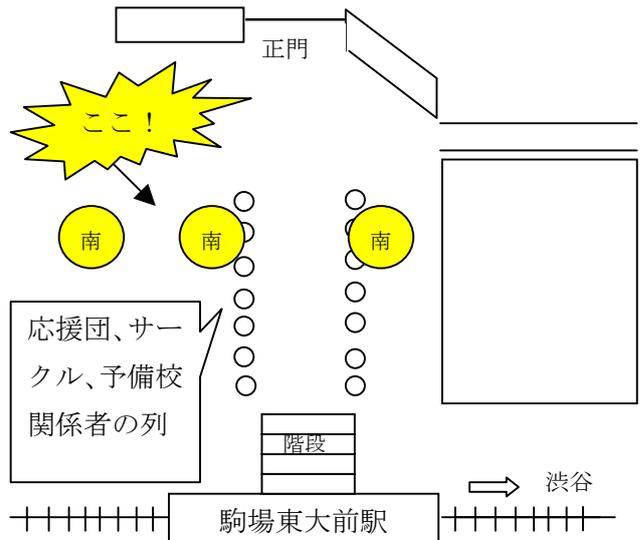
【解説】

そろそろ出願締め切りの時期が来ましたね。もう待ったなしです。新聞に掲載されている出願状況の途中経過は、あくまで途中経過であって最終的には結構動く可能性があることは分かっています。途中経過で「自分の学部はあんまり人気ないよだな、ラッキー〜！」って思っていたら、案外例年よりも倍率が上がる、なんてこともありえます。どんな状況でも全力を尽くせば何とかかなると思います

仕様で出題されたら (4)

ので、高倍率でも怖じ気づかずに頑張ってください。

ここで一つお知らせです。毎年私は、前期試験の初日か二日目かどちらかの日に東京大学の応援に行きます。今年も、よほど体調が悪くならない限りは行こうと考えています。下の黄色い丸の中のどこかをうろちょろしていると思います。見つけたら気軽に声を掛けてください。



それでは問題の解説に入りましょう！

問1・2 この問題はセンター試験の中でも簡単なレベルにあたると思います。

2007年の原油の産出量で世界上位国を挙げると、1位**ロシア**、2位**サウジアラビア**、3位**アメリカ**、4位イラン、5位中国、6位メキシコ、7位カナダ、8位ベネズエラ、9位クウェート、10位アラブ首長国連邦となっています。**ペルシャ湾岸に多くの原油が埋蔵されている**ことは知っていると思いますが、現実の産出量となると、開発余力のある先進国が上位に名を連ねていることに気づきます。これらの国の割合が高くなっている**イ**が産出量に該当します。

次に、2007年の原油の輸入量で世界上位国を挙げると、1位**アメリカ**、2位**日本**、3位**中国**、4位**インド**、5位**韓国**、6位ドイツ、7位イタリア、8

強者の戦略

位フランス、9位スペイン、10位シンガポールとなっています。基本的には、**工業が発展していて、原油などのエネルギーを多消費する国が輸入量の多い国**となっています。我が国では、エネルギー資源の埋蔵量が少ないので、産出できないのは当然として輸出もあまりできません。日本の割合がほかにならべて高くなっている**ウ**に該当します。

残った**ア**が輸出量に該当します。でも「残った選択肢が〇〇です」という書き方では少し淡白な感じがします。**ア**には**ア**なりの理由があるはずですから、それを述べることにします。2007年の原油の輸出量で世界上位国を挙げると、1位**サウジアラビア**、2位**ロシア**、3位**イラン**、4位**ナイジェリア**、5位**アラブ首長国連邦**、6位**ノルウェー**、7位**メキシコ**、8位**カナダ**、9位**アンゴラ**、10位**クウェート**となっています。この統計ではペルシャ湾岸国とアフリカの国(ナイジェリア・アンゴラ)が多いことに気づきます。**原油は産出するけれど、国内で消費するほど産業が発達していない国では、外貨を稼ぐために原油輸出が盛ん**になります。また、ここでは中国もポイントとなります。中国の近年の経済成長率の高さは著しいものがあり、国内経済活発化のために原油などのエネルギーを消費しなければなりません。国内消費が増えれば輸出することもできなくなるので、中国の割合が示されていない**ア**が輸出量に該当します。

問3 この問題は意外に難しいですね。**ノルウェー・ブラジル・カナダが水力発電中心型の国**だということは知っていますし、ノルウェーの述べ方も知っていると思います。**国土の西側を流れる北大西洋海流の上を偏西風が吹いてきて、スカンディナヴィア山脈の斜面にぶつかって地形性降雨となり、斜面の落差、もしくはフィヨルドのU字谷の落差を利用して水力発電に結び付けている**って流れです。ところが、カナダやブラジルではあまり問われたことがありません。ここは冷静に、水力発電の立地場所として利用されやすい、急崖

や傾斜地がどこで発展しているかを考えましょう。

カナダの場合、国土の西部に**ロッキー山脈**が位置しているので、その落差を利用してダムが建設されています。でも、西部だけではありません。東部でも水力発電が盛んです。どの地域かわかりますか？北東部の**ラブラドル高原**です。ラブラドル高原は**鉄鉱石**が取れて、ラブラドル鉄鉱床という言葉も有名ですが、水力発電用のダムもしっかり建設されています。

一方、ブラジルの場合には北東部に**ブラジル高原**がありますね。ブラジル高原から北にトカンチンス川がアマゾン川へ流れていて、その落差を利用してツクルイダムが建設されています。南部では、**ブラジルとパラグアイの国境を流れるパラナ川にイタイプダムが建設**されています。

問4 最近の入試では造船が問われることがほとんどなくなってしまったのですが、そろそろ出てくると思いますので気を付けておいてください。

解答の指針とすれば、日本が停滞した理由を述べて、それに続いて韓国の成長の理由を述べればよいと思います。では、なぜ日本の造船が停滞したのでしょうか？この解答は典型的な解答で大丈夫ですね。**1973年・1979年の石油危機を契機とし、石油価格が高騰したこと**から、**石油を豊富に消費する重厚長大産業が衰退し、自動車やICを中心とする軽薄短小型産業が発展して**いきました。この影響で造船業が衰退したわけです。もちろん、石油の取引が停滞していたので、大型の石油タンカーの受注が減っていたという現実的な話もありますけどね。

こうして日本、そして先進国が石油危機を契機に不況に落ち込むと、国際的な貿易量が減ります。貿易量が減った時代に、どの船舶が切り捨てられるかといえば大型船です。だから日本は大型船建造数を減らしていきます。一方の韓国に目を移すと、60年代～70年代にかけて急激に成長を果たし、NIEs(新興工業経済地域群)の一員として認

強者の戦略

識されるようになりました。ポハンに製鉄所、マサンに輸出加工区などが設置され、ウルサンでは造船業が発展していきました。そして、韓国ではしっかりと大型船の建造ができるように港湾を整備していきました。80年代以降、石油危機のダメージが回復に向かい、国際的な貿易量が増加し始めると、再び大型船の受注が増え始めます。韓国はこの波をとらえて順調に造船竣工量を伸ばしていきました。なお、解答のポイントとしては、**韓国の強さは大型船が建造できるだけではなく、賃金水準が低い**ということも頭に入れておきましょう。

問5 ③と④だけじゃなくて、①と②も当てはめておきましょう。①はスウェーデンやフィンランドといった冷帯の国が見られるのでパルプに該当します。冷帯気候の植生は針葉樹林が一般的で、軟らかく育った針葉樹林は簡単に加工することができて紙・パルプになりやすいのです。②は中国の割合が高すぎるのでセメントになります。セメントの原料は石灰石なので、石灰石が取れるところで成り立ちます。中国の南部一帯は、コイリンのタワーカルストで有名なように石灰岩質の台地が覆っています。どこでも石灰石は得られやすいので、世界の約半分の生産量となっています。

③は砂糖なんですけど、珍しい統計データですよ。農作物統計において、ブラジルが1位でロシアが5位なんて、なかなかお目にかかれませんか。寒冷な国と温暖な国で好対照ですから。そこで浮かんでくるのが砂糖の存在です。砂糖は、ブラジルやインドといったサトウキビが取れる国で作られる一方、ロシアのようにテンサイからも作られています。このことに気づけたら正解答案にたどり着けたはずですね。

④のワインは簡単です。ワインの原料はブドウで、ブドウは夏に乾燥する地中海性気候で作られやすいので、いずれも地中海性気候を国土の一部に含む国が並んでいる④になります。ちなみに、

チリ・南アフリカ共和国・オーストラリアなどの南半球の国でもワイン製造は盛んです。

問6

M地域：マサチューセッツ州とボストン大都市圏を中心とするこの地域は北アメリカ大陸で最古の工業地域で、19世紀初頭には繊維・衣料生産の中心でした。アメリカ合衆国南部の州から繊維・衣料の原料としての綿花が輸送され、この地域で加工されていました。しかし、ヨーロッパからの移民がこの地に定住して低賃金で働き生活水準を上昇させ、労働組合を結成するようになると賃金が上昇し、繊維産業は賃金の安い南部に移動することになります。結果的に、この地域では高付加価値で高級な繊維と衣料を生産するようになっていきます。

また、繊維産業以外の工業に目を移せば、ボストンを中心とするマサチューセッツ州東部の工業は、電子機器、薬品製造、宇宙工学、計測器、兵器、そしてコンピュータを含むハイテク産業の発展によって復活しました。1980年代中頃までに、マサチューセッツ州の工業の3分の1以上はハイテク部門が占めるようになったぐらいです。多くの新企業はボストン地域の熟練した労働者、経営的能力、技術者の創造性、ベンチャー資本、研究総合大学、そして技術の相互関連に誘引されて創立された子会社です。これらの会社の設立には、地域内にあるボストン大学、マサチューセッツ工科大学(MIT)、ハーヴァード大学の出身者が貢献しており、産学連携が進んでいることが分かります。

K地域：K地域の工業地域の立地条件は、①工業資源としての石油、天然ガス、硫黄、石灰の存在、②燃料としての豊富な天然ガスの存在、③容積のある工業製品を運搬するのに有利な水上交通が利用可能なことが挙げられます。特に有名なのは石油の存在ですよ。当然、「石油化学が発展している」と書くことはできたはず。メキシコ湾岸工業地域は全米の精油能力の約40%を

強者の戦略

持っていると言います。ただ、それだけでは面白くないですね。ダラス・ヒューストンの宇宙航空産業にも触れてほしかったです。

ここまで読んでくださった方、お疲れ様でした。次回はどのような問題になるかわかりませんが、またお会いしましょう！